

(第3種郵便物認可)

インフルエンザには多くの人が感染した経験があり、免疫を持っているはずなのに、なぜ毎年流行を繰り返すのか。そしてなぜ、突如として世界的な大流行(パンデミック)を起こすのか。アフリカ



など発展途上で感染症対策に従事し「新型インフルエンザ」(岩波新書)の著書がある山本太郎・長崎大熱帯医学研究所教授に聞いた。  
・聞き手は報道センター 横尾誠

# 新型インフルなぜ誕生

山本太郎・長崎大熱帯医学研究所教授に聞く

「なぜ、冬だけ流行するものもあれば、パンデミックとなるケースもあるのか。」  
それはインフルエンザウイルスの「生き残り戦略」と考える。とわかりやすいかもしれない。ウイルスに感染した人は再び同

「なぜ、冬だけ流行するものもあれば、パンデミックに至る仕組み。」  
パンデミックに至る仕組み。パンデミックを起こすのは、A、B、C型(タイプ)のウイルスのうちA型だけ。このA型ウイルスはH1からH16の十六

「パンデミックは冬と限定されない。」  
この組み合わせの変化は宿主の体内で起こる。宿主は人や水鳥、豚などがあるが、豚は人に感染するウイルスにも、鳥に感染するウイルスにも感受性がある。今回も、豚の体内で、人や鳥に由来する複数種類のウイル

「組み合わせの変化は宿主の体内で起こる。」  
この組み合わせの変化は宿主の体内で起こる。宿主は人や水鳥、豚などがあるが、豚は人に感染するウイルスにも、鳥に感染するウイルスにも感受性がある。今回も、豚の体内で、人や鳥に由来する複数種類のウイルスの遺伝子が再集合して組み合わせを変え、大きな変異を起して新型が誕生したと考えられる。

「新型の毒性は予想より低い。」  
毒性の強い鳥インフルエンザより被害は限定的かもしれない。しかし、毒性と世界的広がりという問題は分けて考えなければならぬ。

## 「生き残り」かけ突然変異

## 40—50年でパンデミック

「ウイルスに感染することは多い。ウイルスが一度感染した宿主(たとえば人間)に再び感染するにはウイルス自身が変化する必要がある。つまり突然変異を起すことで、自らの延命を図ろうとしているといえる。」  
一度に大きな変異は起こしにくい。そこで大部分は前のシーズンと同じだが一部が違う部分的変異を起す。これによってウイルスは毎年流行を繰り返す。ただ変異は一部で、残りに

「では新型とは？」  
ウイルスは小さな変異では短期間しか生きられない。そこで生き残りをかけて四十五十年に一度大きな変異を起す。これが新型だ。新型に免疫を持っている人はいないから、いったん発生するとたちまち世界中で大流行する。パンデミックは今

「今回の組み合わせは季節性のAソ連型と同じ。」  
「H1N1」という。それだけではない。新型なので、確かに新型インフルエンザの本来の定義はサブタイプが異なるために、誰も免疫を持っておらずパンデミックになる、というものだった。この点は、さら

「今回の組み合わせは季節性のAソ連型と同じ。」  
「H1N1」という。それだけではない。新型なので、確かに新型インフルエンザの本来の定義はサブタイプが異なるために、誰も免疫を持っておらずパンデミックになる、というものだった。この点は、さら

「今回の組み合わせは季節性のAソ連型と同じ。」  
「H1N1」という。それだけではない。新型なので、確かに新型インフルエンザの本来の定義はサブタイプが異なるために、誰も免疫を持っておらずパンデミックになる、というものだった。この点は、さら

「今回の組み合わせは季節性のAソ連型と同じ。」  
「H1N1」という。それだけではない。新型なので、確かに新型インフルエンザの本来の定義はサブタイプが異なるために、誰も免疫を持っておらずパンデミックになる、というものだった。この点は、さら